



卒業式を終えて

3月2日に卒業式が終わりました。チャレンジセンター翌日から、3年0学期としてスタートしましたが、すでにその0学期も終わろうとしています。センター試験まですでに300日となり、卒業までも365日を切りました。卒業式、3月2日という時期は、3月入試をのぞき、私立大学の入試と国立前期入試が終わり、残すは早稲田の一部学部、国公立前期の発表、そして国公立後期のみ、という状況になっています。そういう意味では、卒業までは365日あっても、入試まででいえば、1年後には入試がすべて終わっていることになります。

チャレンジセンター試験、模擬試験などの結果が続々と戻ってきています。ここではおおよばに成績を振り返ってみたいと思います。

チャレンジセンター結果分析

チャレンジセンターの結果は、非常に微妙なものです。英語の平均点は108.8、数学ⅠAは46.0、数学ⅡB25.1、国語104.2となっています。偏差値換算した場合、29期生と比べて、英語と国語は3ポイントアップ、数学はほぼ変わらず、という結果です。この結果だけでいえば、あまり問題がないといえなくもありませんが、次の3点において、非常に心配しています。



第一に、センター試験は高校2年の範囲であり、ここである程度の完成をしていないと、このあと難関大学の対策に進めないという点です。センターは高校2年生までの範囲である以上、第一志望のボーダーラインまで得点することは可能ですし、ボーダーラインに近い得点をとっておかなければ国公立2次、早慶などの難関大学の入試問題、文系のMARCH対策、理系の数ⅢC、物理・化学のⅡ範囲など、その先、あるいは異なる分野の完成は到底見込めないからです。「あと1年あるから…」というわけにはいかないのです。センターとは異なる分野、センターでは出題されない問題の対策をその先に積み上げなければならないからです。今回の平均点は英・国で50%、数学では30%程度です。センター試験の性質を考えると、本学年の平均点程度の生徒はおろか、上位1/3程度の生徒でも、千葉大クラスの国公立大学がかなり厳しい状況にあるといえるでしょう。しかしながら、国公立希望者は、前回の河合模試で理系の国語受験者が120名いたことを考えあわせると、90%程度の生徒は、ほぼ厳しい状況であるといえます。

第二に、高校1年生からの模試の成績推移を改めて研究すると、大変残念ながら、高校2年間での成長があまり芳しくないということです。これは、大きくは私たち教員の力不足、授業力不足であることと改めて深く反省しています。しかし、「じゃあ、予備校に通う」というようなことでは解決しません。予備校に通うことを否定するわけではありません。基本的に、受験勉強は自分でするものだという事です。私たちも、この模試結果を真摯に受け止

めて、今後の授業に生かし、放課後講習などを実施していきたいと思います。しかし、そうした機会をどう生かすかは結局受験生本人でしかないということです。自分たちの力不足をあえて棚にあげて、君たちの中に原因を求めていくなれば、現状ではとても学習習慣がついているとはいえない状況であるということです。あるいは、学習しているものが足りない(単語と文法ばかりで、読解問題を解いていない、英作文をやっていないなど)、レベルが間違っている(基礎の基礎ばかりやっていて、いっこうに入試レベルの問題に取り組まない、入試レベルの問題をわからなくても大丈夫と思っている)などの問題が隠れていそうです。

第一の点、第二の点を合わせて考えるなら、現状のままがんばったとしても、とうてい第一志望校には至らないという結論が導き出されると思います。

第三に、文系の数学、理系の国語と、センターのみの科目が、29期生に比べ、下位に多数存在するという事です。もちろん、これが私立受験にシフトし、すでに使わない生徒であるなら、あまり問題にならないのですが、文系も理系も29期生に比べ、国公立希望者は多い状況のようですから、だとすると、例年以上に国公立シフトになっていないにも関わらず、「国公立志望」になっている可能性があります。もちろん、現状を把握して真剣に授業に取り組んでくれれば問題はないのですが、こうした生徒が、早々に科目を捨て、授業の雰囲気悪くすることが生じては、学年全体に影響を及ぼすことになるでしょう。すでに科目選択は終え、今後の変更はできませんから、私たちとしては、当初お願いした通り最後まであきらめられないよう指導するしかありません。だとすると、よほど覚悟を決めてがんばってもらわないといけない状況が生まれています。

自己採点の重要性

今回、最も大きな問題点として浮かびあがってきたのは、自己採点の不正確さです。

センター試験は、受験後翌日に自己採点をし、その結果をデータリサーチ、データネットなどと呼ばれる合否判定にかけるわけです。その結果をもとにして、実際の出願大学を検討するわけです。その際、もともになるのが、自己採点による得点です。

センター試験は完全にマーク式ですから、配点まで発表される以上、自分の得点が本来正確に把握できるはずですが、マーク模試のたびに、自己採点をし、その結果を照合するように指導してきましたが、今回ははじめての全員受験のセンター試験ということで、全員の自己採点結果を回収していました。英語、リスニング、数学ⅠA、ⅡB、国語の5科目について、すべて自己採点と実際の結果があっていた生徒は、なんと14名に過ぎませんでした。この計算では、1科目でも間違っていると間違いにカウントされていますので、すべての科目で合っている率を計算し直すと、合っている率は40%程度に過ぎません。5科目あるわけですから、ひとりあたり2科目しか合っていない、3科目は間違っているということになります。生徒によっては、1科目で20点から30点ずれているケースもあります。国語などでは1問7点~8点、英語では1問6点という問題もありますから、3問から4問、あやふやな自己採点があるだけでこれだけのことが生じます。このような状況の中で、出願をしていくのは大変困難です。何点をとっても出願校を変えないならいざ知らず、たいていの生徒は、「本当は千葉大だけど、この点数ではチャンスがないので、埼玉大学」というような出願を考えるからです。このまま1年間行くことは大変危険です。マーク模試を受けるたびに正確な自己採点ができる練習をしなければならぬ状況だといえます。問題集を解くときも、解答用紙をマークし、問題で自己採点、解答を採点という2種類の採点を比べる練習が必要になると思います。

高1のセンター試験結果と比べて

昨年、高1の春は、宿題としてセンター試験に取り組み、その結果を自己採点し、提出してもらいました。昨层高1との試験結果の比較をしてみたいと思います。

まず、英語を見てみましょう。英語は平均点との差を14点つめています。200点満点ですの

で、7%上昇したといえるでしょう。英語のような積み重ね型の科目は、定期的な学習を積み重ねることで確実に得点アップが期待できると考えられます。仮に、高1から高2の1年間と同じ勉強量を積み重ねたとしても（受験生としてでなく、クラブをやりながら授業を中心に勉強したとしても）おそらくまた7%程度が1年後に成長しているといえるでしょう。

では、国語はどうでしょうか。同じ200点満点ですが、伸び率は8.6点、4.3%となります。英語に比べると実に半分の伸び率しかありません。もちろん、国語担当者の教育力不足という可能性もありますが、中身を見てみると、現代文は2.9点/100点、古文は4.0点/50点、漢文は4.2点/50点です。つまり、現代文が2.9%しか伸びないのに対し、古文、漢文は8%上昇したことになります。つまり、古文、漢文は英語型であり、同様の学習でも8%の伸びが期待できるのに対し、現代文という科目が極端に伸び率の悪い科目であることがわかります。現代文は日本語ですから、たいして勉強しなくても、たとえば、小学生が受験したとして最も得点がとれる科目です。しかし、得点上昇率は極端に低く、受験勉強を繰り返しても伸びていかない科目であるわけです。受験生の心理からすると、「勉強していないのに得点がとれた→すればもっと伸びる→現代文は大丈夫」となるわけですが、実は最初の得点から成長が期待できないわけです。つまり、国語で計算をたてるためには、古文、漢文を英語のように学習し、のばしていくしかありません。この科目をさぼって「現代文でカバーする」などと考える受験生は確実に失敗することが、このデータからわかります。



最も衝撃的なのは数学ⅠAです。（ⅡBは昨年、全範囲終わっていないため、宿題にしています）なんと、平均点差がマイナス13点と、広がる結果になっています。もちろん、次年度数学を使わない文系も混じっていますから、使わない生徒が足をひっぱったのかもしれませんが、そうであるなら、国語でも同じ現象が起こっておかしくありません。そうしたことを考慮にいれたとしても、このマイナスは衝撃的です。つまり、数学という科目は、意外と積み重ねでなく、その分野を演習していないと学力が落ちるということを意味しているでしょう。振り返って考えてみると、文系はⅠAⅡBを復習し続けるだけになりますが、工学部、医学部系の理系は、次年度数学ⅢCに取り組むわけですが、このとき、ⅠAやⅡBの復習をしないとすると、センター試験ではさらに得点が減少することが予想されます。さらに演習不足になり、忘れていくからです。逆にいえば、今回の平均点から考えると、数学ⅢCを授業で取り組む傍ら、数学ⅠAⅡBの復習をせざるを得ないということになります。しかし、数学ⅢCは非常に難しく演習量もⅠAⅡB以上に必要になりますから、時間がいくらあっても足りないということが起こります。

これに加えて理科、社会が入ってくるわけですから、受験勉強がいかに大変かがわかるでしょう。最低限次のことを肝に銘じてください。

- ① 国語は、古文、漢文で勝負。現代文は得点がのびないつもりで得点計算を。
- ② 数学は演習科目。演習しなければ、得点は落ちる。ⅠAⅡBに穴がある生徒は大至急復習を。

以上のようなことを考えながら受験勉強に向かってください。

河合塾マーク模試から

最後に希望者受験であった河合塾マーク模試の結果から理科、社会について触れておきたいと思います。29期生と比べて、理科社会の成績が非常に厳しいものとなっています。よくいえば国数英の主要3教科が順調であるともいえますが、悪くいえば、理系の主要教科である理科（国語はセンターのみです）文系の主要教科である社会（数学は一部生徒のみです）が揃っていないということが指摘できます。というわけで、理系の理科、文系の社会への取

り組みが急務です。

まず、理系の理科ですが、この科目は、数学だと思えることが最重要です。すなわち成績を上げるためには問題演習が必要不可欠であり、数学と同様に演習を怠るだけで、得点が減少する可能性すらあるということです。理科も数学同様、ⅠからⅡという新しい分野に入っていきますので、Ⅱをやることで、Ⅰをやらなくてすむというようなことにはなりません。一刻も早く問題演習に入る必要があります。中学受験や高校受験の理科のイメージで、暗記で乗り切れる、と思っははいけません。演習、計算、公式の活用とまさに数学になるのが、大学受験の理科です。前から言っていることですが、3年生になる前に取り組み方を一刻も早く見直してください。



社会は、それに比べると、勉強法は中学受験、高校受験と原則的には同じ線上にあります。しかし、量が膨大です。これが尋常ではありません。高校受験の社会では、よほど無理をしなくても、他教科との関係の中で2ヶ月程度あれば一通り終わることができるでしょう。しかし、大学受験は、よほど根性を入れても半年で終わることはありえません。また、量が尋常でないほど膨大であるため、一度やったところを復習しないと忘れる、という恐ろしい事態を迎えるので、高校受験以上に復習が必要となります。さらに早稲田や慶応では、近現代が中心となり、またテーマ史など、さまざまな分野をまんべんなく理解した上で、違う角度で取り出してくるということが要求されます。近現代が中心といっても、古代からの出題がないわけではなく（一部

学科では近現代だけに指定されますが、センター利用や併願校を考えればやらないわけにはいきません。）、論述が中心になるなど、一通り終えた後さらに実践練習が待つというイメージでしょうか。文系の社会は勉強量と成績が正比例する科目ですので、成績上昇のグラフが受験日に間に合わなければ、量を増やすしかありません。夏休み以降ではとてもMARCHレベルの合格圏にも入ってきません。時間を倍にすれば、正比例である以上、倍のゆとり、倍の成績上昇が得られる科目ですので、一刻も早く受験勉強体制に入る必要があると言えます。文系は何度も繰り返し言ってきましたが、完璧が求められます。河合塾模試偏差値で、1科目1分野でも偏差値55程度の科目があるとMARCHレベルには合格しません。社会が最低でも偏差値60になるように学習計画を立ててください。

以上のように、理科、社会への出遅れを解消することも現段階の大きな目標となります。しっかり取り組むようにしてください。理系は国語よりも理科、数学と同じくらい理科、文系は英語、数学、国語と同じくらい社会、というイメージです。量と質の両面から考えていきましょう。

使用した教科書はきちんととっておきましょう！！

1 来年使う科目、受験で使う科目は必ず必要になります。授業で継続して使う科目もありますし、教科書をきちんと読むことは受験勉強の最低限です。

2 特に理系の生徒は、大学入学後に、物理、化学、数学、生物などの科目を高校レベルから試験で要求されます。入試で終わるわけではなく、同じことを大学でもう一度要求されますので、捨ててしまうと買い直すこととなります。

春休みを迎える前のチェック

- 第一志望校の赤本をチェックし、問題傾向、合格最低点などをつかんでおこう。
- 第一志望校の試験を突破するための学習計画を立てよう。→ただ単語をやる、文法をやる、というように、誰かに言われたことをやっても合格はしません。自分に必要なものを考え、何をやる必要があるかをきちんと整理しよう。
- 学校の授業（あるいは、塾の教材）では、不足する部分を書き出し、合格するために必要な「教材」を手元にそろえよう。
- 模試受験のおおよその計画を立てよう。センター試験受験者はマーク模試、そのほかは記述模試、有名校受験者は大学プレ模試など、どこにどんな試験があるかを把握し、クラブ活動の予定などと照らし合わせて、おおよその受験計画を立てよう。
- 春休みを出発点として、第一志望校、あるいは実力相応校などの過去問題を一問は実際に解き、おおよその得点を把握しよう。
- 第一志望校などの受験システムを理解し、特にAO入試、自己推薦などを受験する場合、要求される資格や試験に対する準備をしよう。
- 小論文や面接がある場合、試験科目にカウントし、学習計画や模試計画の中にきちんと組み込もう。
- 目標達成シート、模試分析シートを2週間ごと、模試ごとに、きちんと書き、手帳などを使って行動をチェックしよう。
- 行動が実行できない場合、ノックシートなどを用いて、習慣化しよう。

できていますか？

- 目標をきちんと立てる！→目標がなく、課題を一生懸命やっても間に合わなければ不合格になります。
- 目標に合わせた学習計画を立てる！→先生や塾や先輩の言っていることをただやっても実力や目標大学が違えば、合格にはほど遠いです。大学と自分に合わせた「対策」を立ててください。
- 学習計画を実行する！→いくら計画があっても、実行してなければ意味がありません。
- 実行できない理由を把握し、環境を整える！→夜更かし、メール、ゲーム、勉強場所、友人など、勉強を妨げる一歩前の原因を特定し、取り除きましょう。
- 試験結果をもとに計画を修正する！→やっていないからできないのか？やっているのに量が足りないからだめなのか？やっているけどやっていることが間違っているからだめなのか？成果が上がっているけど第一志望には届かない、などなど、結果を見て、修正することは必要不可欠です。
- 時間を無駄にしない！→なんといっても授業です。いくら授業がレベルが低かったとしても、意味がないことはありません。毎日6時間の授業を有効に使えば、自宅や塾は、自分の強化ポイントだけに絞れます。

30期学年目標

未知の世界を切り開き、社会に貢献する、自立した「人財」へ

目標とする人間像

「気づき」のある人間 「聞く姿勢」を持つ人間 「学び続ける」人間

身につけるべき力

目標から「逆算」する力
やるべきことを「具現化」する力
他者を「理解」し、「理解される」力



夢実現のための十則

- 夢を持て。ない夢はかなわぬ。目標なく一生懸命やることに酔うな。
ルーティン型の人注意！
- やることを与えられるな。自分のために創り出し、形にして期限を決めよ。
ルーティン型の人注意！
- 他人と関われ。他人を理解しようとしろ。他人に理解される努力をしろ。
- 挨拶をせよ。人に気づき、人に気付いてもらえる。
- 毎日他人に奉仕しろ。心がきれいなら他人も応援してくれる。
- 話を聞く姿勢を作れ。聞く人には教えたくなる。助けたくなる。
期日目標型の人注意！
- 書け。何度でも書き直せ。書かないことは考えていないこと。
期日目標型の人注意！
- 自分と戦え。自分は見ている。人と戦うな。気にするな。自分が変われ。
- 大事なことは最初にやれ。優先順位を考えろ。タイミングを逃すな。
期日目標型の人注意！
- 成功を繰返し、失敗を繰返さぬよう分析しろ。原因を五回さかのぼれ。
ルーティン型の人、期日目標型の人、注意！

今後の予定

- 3月9日(水)~12日(土) 中間試験
- 3月14、15日 自宅学習
- 3月16日(水) 解答会 OB進路講演会・学年集会
- 3月17日(木) 解答会 スタディサポート数学・学習状況調査
- 3月18日(金)19日(土) 駿台マーク模試(希望者)
- 3月24日(木) 終業式